オログンデ サ元 神 者、インド（4/4）

3.0

明:

イスラ ムを受け入れる 断をしたあと、オログンデはイスラ ムを ぶか、夫を ぶかという人生の中でも最も しい に直面します。

目: 事新改宗者ムスリムの逸 女性

より: オログンデ サ

日21 Jan 2013

集日 21 Jan 2013

キリスト教の信条に する疑 はすべて解消しました。私はクルア ンから、以下のことを学びました。

1．イエスが神ではないこと。また神の子でもないこと。

2．彼が十字架へ磔（はりつけ）にはされなかったこと。

3．彼が私たちの罪のために死んだのではないこと。

4．三位一体という概念が存在しないこと。

5．以上のものに一つでも反することは神への冒 であること。

クルア ンの中の 述には、道理のかなわないものが一つもありません。事 、私は生と死にまつわるその他の疑 に する答えもクルア ンの中から 出しました。クルア ンはアッラの言 です。そこに疑念の余地はありません。私はクルア ンの典 について べました。また、 言者ムハンマド（神に慈悲と祝福あれ）の も学びました。彼の で を流しました。

イスラ ムには、盲信の居 所がありません。神は私たちに、理性と常 の力を用いて真理に到 するよう呼びかけています。

私は真理を つけたのです。私がしなければならなくなったことは、唯一なる神（アッラ ）以外に神はなく、ムハンマドはアッラ の使徒であるという信仰宣言をすることだけでした。

それ以外に考え得ることはありませんでした。私は夫にイスラ ムのことを打ち明けました。私たちはほとんど 日、宗教 争をしました。彼はより なにバイブルに るようになり、キリストを拒否することは出来ないと言い りました。彼は私の を真 に受け止めませんでした。彼は私に、自分が信じたいものを信じれば良い、と言いました。彼は私がイスラ ムに改宗することに意 を唱えませんでした。

しかし、 があったのです。もし私がシャハ ダ（イスラ ムの入信宣言）をしてイスラ ムに入信したのなら、私と夫の 婚は自 的に解消されてしまうのです。ムスリムの女性は非ムスリムまたは不信仰者と 婚してはならないからです。イスラ ムでは、女性は夫にでなければなりません。夫は家 だからです。それゆえ、夫がキリスト教徒であれば、ムスリムの女性は彼に うことが出来ません。イスラ ムは一家における二次的な地位に甘んじてはならないのです。虚 ではなく、真理が 位でなければならないのです。

私は 断をしなければなりませんでした。私が（真理である）イスラ ムを受け入れるのか、あるいはこのまま夫とキリスト教徒のような生活を けるのか。私は夫を心から していました。私は彼と暮らすために祖国を て、彼の存在は世界中で最も大切なものでした。しかし、私には虚 の中に生きるということは出来ませんでした。こういった状でイスラ ムを 践することは、 めて しいであろうことは分かっていました。そして、私は 婚を 意しました。

彼と れることを考えただけでも心が り裂けそうでした。私は え なく泣きました。しかし、私の 意は るぎませんでした。彼と れた に何が起きるか、想像もつきませんでした。私はアッラ にすべてを任せることにしました。私は夫にそのことを打ち明けました

。私の言 を いた夫は、ようやく事を真 に受け取り始めました。彼はイスラ ムについて べ始めたのです。彼は、この宗教のことが分かるまで をくれ、と言いました。

その 夫は、まず私を失いたくないという思いに られていたようです。おそらく彼は、その 私が正 を失ったとでも思っていたのでしょう。しかし、彼はイスラ ムについて べけました。彼は人生を通してキリスト教にどっぷりと かっていたため、イスラ ムの教えは彼にとって新奇この上ないものでした。

2000年の10月6日、私と夫は一 にイスラ ムに改宗しました。しかし私の夫はまだ、多くのことが理解出来ていませんでした。彼は人生の中で何が起こっているのか理解出来ず、何もかもがひっくり返ってしまったのだと思っていたのでしょう。彼は にはクルア ンを みましたが、バイブルの方により多くの を割きました。それでも私は いませんでした。私は 婚せずに んだことが嬉しく、アッラ が彼を いてくれることを信じていました。

アッラ に えあれ!
夫は海 に所属しており、半年 に渡る をしなくてはなりませんでした。この期 中、彼はクルア ンを全ペ ジ む 会を得ました。ある日、彼はメ ルの中で、クルア ンの 以外に何もしていないと 告してくれました。彼はそれを手元から すことが出来なかったのです。
遂に、彼はそれが神の言 であることを 信したと言いました。彼は新たな信仰宣言を く望むようになりました。船がオ ストラリアに寄港したとき、彼は直ちに最寄りのモスクを れ、そこの同胞たちにシャハ ダをしたい旨を告げました。彼らは、あなたは奥さんと一度シャハ ダをしているのだから、もう一度する必要はないよと言いました。夫は、当 はそのことが全然理解出来ていなかったのだと言いました。彼が改宗したのは、私のためだったのです。今は、自分のためだけにそれをする 持ちになったのです。
彼がオ ストラリアのモスクでシャハ ダをしたとメ ルしてくれたとき、私は 喜の を流しました。

世界の数十 人の中から、神が私たちを び、 いてくれたことには、感 の念で一杯です。それは、人が受けることの出来る、最も 大な名誉なのですから!

アルハムドゥリッラ ヒ ラッビルア ラミ ン（全世界の主たるアッラ に称 あれ）！

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/1609

著作　2006-2015 断　を禁じます。　2006 - 2023　IslamReligion.com. 断　を禁じます。